

# 8月の園だより

## 《園長の言葉》

令和7年度 認定子ども園竜光保育園 第722号

連日、真夏の日差しが容赦なく園庭・園舎を照り付け、農作物や庭木だけでなく、私たちが干からびてしまいそうな気持ちになりそうですが、毎日元気よく登園している子どもたちは、この時季ならではのプール遊びや水遊びなどを、存分に楽しんでいるようです。

さて、休暇に入ると、ご家族で各地の観光スポットなどに出かけることも多いのではないのでしょうか。そのスポットには神社仏閣等もあり、その際、神仏に様々なお願い事をする方も少なくないのではないのでしょうか。無病息災や商売繁盛、合格祈願などの気持ちが起こるのは、仕方がないことだとは思いますが、果たして様々なお願い事を叶えて下さるのが、仏様などのお仕事なのでしょう。願いを際限なく叶えてくれる、肯定する神仏というものは本当に真実なる存在と呼べるのでしょうか。それは、欲望に神仏という聖なるペールをままとわせることにより、それを肯定しようとしているだけのものだと私は思います。仮に、その神仏に願い事をして、たまたまその願いが叶ったとしても、次に大半の人が何をするかというと、さらなる大きなお願いをするのに違いありません。欲望を助長するような神仏は、真実なる存在と決して言えるはずありませんし、それは自身をさらなる迷いの世界に引きずり込む教えに他なりません。また、その願いが成就した場合、その背景にある本当の意味での様々な人やものに対するおかげさまの気持ちを忘れて、気付くことも出来ないのではないのでしょうか。

少し前に『サンドウィッチマン&芦田愛菜の博士ちゃん』というTV番組に出演されていた、神社仏閣に深い見識を持っている10歳の少女がどの場所に参拝しても、必ず「いつも有難うございます」と大きな声で感謝の言葉を述べ、手を合わせていたシーンが今でも印象に残っています。私は神仏に対しては、感謝の気持ち一言(いちごん)だと思っています。あれやこれやとないものばかりを探し求めたり願うのではなく、今ある何気ない普段の日常の中に喜びや幸せを見出し、感謝していけるような毎日をお互い送っていききたいものです。

平尾台千仏鍾乳洞への園外遠足(桜組)



## 7月生まれのお友だち



## 8月の行事予定

- 8月1日(金) 一日保育士体験 (新道寺小学校先生来園)
- 4日(月) 英語教室(桜・梅組)
- 5日(火) 竜光のんの広場
- 6日(水) 硬筆教室(桜組)
- 7日(木) ダンス教室
- 18日(月) 身体測定(未満児)
- 19日(火) 硬筆教室(梅組)
- 〃 身体測定(以上児)
- 20日(水) 誕生会
- 24日(日) 夕涼み会
- 25日(月) 英語教室(桜・梅組)
- 27日(水) 毛筆教室(桜組)
- 下旬 避難訓練

## トウモロコシの皮むき & クッキング保育



## クラスだより



### 《さくら組》

先月から始まった子どもたちの大好きなプール遊び!!水を怖がることもなく、ダイナミックに遊びを楽しんでいます。真夏の暑さに負けることなく、体調にも十分気を付けながら、この時季ならではの遊びを楽しんでいきたいと思ひます。



### 《うめ組》

水遊びがいっそう楽しい時季となり、こどもたちはプール遊びに夢中です。また、最近『アイスクリーム』の歌が大好きで、みんなで歌っています。まだまだ暑い日が続きますが、こまめに水分補給や休息をとりながら、いろいろな活動に取り組みたいと思ひます。



### 《もも組》

先月から始まったプール遊びでは、水を怖がることなく遊びを楽しんでいます。友だちとの関わりも増え、一緒に遊ぶ楽しさや思いを伝え合う子どもたちです。暑い日も続くと思ひますが、水分補給をしっかりと行いながら夏ならではの遊びを楽しんでいきます。



### 《たんぽぽ組》

水遊びが始まり、水に触れることを喜んでいる子どもたち。少しずつ衣服の着脱も自分でやろうとするなど、何に対しても意欲的に自分でやろうとする姿が見られます。今月から2名お友だちが増え、ますます賑やかになります。暑さに負けず、夏ならではの遊びを楽しみながら過ごしていきます。



### 《すみれ1歳児組》

毎日暑い日が続く中、子どもたちは“じょうろ”や玩具を使って、心地よい水の感触を楽しんでいます。今月は夕涼み会もありますので、体調に留意しながら、出し物の練習などを頑張っていきたいと思ひます。



### 《すみれ0歳児組》

今月から新しいお友だちが2名増えました。子どもたちは、歩行や“ずりばい”をするなど探索範囲も広がってきました。先月から始まった沐浴にも少しずつ慣れ、最初は怖がっていた子も、水の感触や音などの心地良さを感しながら、毎日笑顔で楽しんでいます。これからも子どもたちに寄り添い、意欲的な気持ちを大切にしながら、喜びの共有体験を増やしていきたいと思ひます。

